



# JSQC ニュース

No.274

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 中期計画を骨格とした学会運営へ
- 2-私の提言 「データ解析力」を活かした産学連携研究の推進を!
- 2-ルポルタージュ 第315回事業所見学会ルポ
- 3-研究会だより/新規研究会募集/12月の入会者紹介
- 4-行事案内/5th ANQ Asian Quality Congress

## 中期計画を骨格とした学会運営へー品質立国へ向けての取り組み

理事 永原 賢造

当学会の運営単位は単年度計画を基本とし、総会で前年度の実績と当年度の計画を報告・審議・承認を以って運営されてきている。

会長副会長を含む理事の任期は2年で、毎年半数が入れ替わり、会長は産学交代(産会長1年、学会長2年)で運営されているが、重点施策は単年度で終ることは少なく、連続性を確実にして成果に結び付けていくことが課題としてあった。

### ■中期計画立案にいたる背景

さて、日本の現状の品質管理に関係した課題としては次の事項が挙げられる。

- 1) 低迷する日本企業の国際競争力
- 2) 社会の安全や安心を脅かす企業の不祥事や重大事故の多発による社会問題
- 3) '70年代後半から80年代に築き上げられた“品質世界一”という信頼の日本ブランドの再構築

これらの課題に対して、ものづくり立国を再生復活させ、“品質世界一”の日本ブランドの再構築に当学会が関与していこうとの意向と、このような考えで品質立国再生を推進していくために本格的な中期計画(3年後に目指す姿をはっきり描き)を立案共有化して、単年度計画に落とし込むプロセス整備の必要性が35年度の桜井前会長から示された。

### ■総合企画委員会設置による検討

前年の総会で、“総合企画委員会は、本会の目的を達成するために、3年先を見据えた中期計画を立案すること、及びこの中期計画を単年度運営方針に反映する”役目を果たすために設置が承認されてスタートした。'05年12月から活動をはじめ、ほぼ毎月の検討会と理事会への途中報告を行い、35年度計画への途中反映も含め、'06年8月に中期計画として発行し、36年度の運営方針に本格的に反映する運営が始まった。

### ■中期計画の構成とその骨子

品質立国再生に当たって、その構成を4分類、すなわち「品質の確保」「品質の展開」「品質の創造」及び「共通」として合わせて30項目を展開している。

「品質の確保」は、言うまでもなく顧客及び社会に約束した質と価値を守り、安全と安心を確保するための諸施策のくりであり、信頼性・安全性研究会のスタート、テクノメトリックス研究会、ソフト部会等の研究の拡大、産学連携の産における実践トライアルなどの継続拡大が主たる項目である。

「品質の展開」は、ものづくり企業で創り出し工夫改善を積み上げてきた実績のある品質の確保に関する考え方、理論、ツール、マネジメントシステム等をサービス産業へ広く展開することであり、医療関係の拡大策として

の、医療研究会、医療部会による研究の質と量の拡大、原子力関係への関与開始、シミュレーションとSQC研究会、QMS部会等の一層の研究拡大が主たる項目である。

「品質の創造」とは、顧客や社会への新しい価値を創造していくことであり、価値と品質の二元関係の研究発信、サービス業における顧客価値創造の方法論研究等をその主たる項目としている。

「共通」には単独事項ではなく、文字通りの「共通」項として、学会からの発信力向上として論文の質量の拡大、同産業界での活用度の向上、学会員・賛助会員の質量の拡大、国際連携の強化等がその主な項目である。

各々の項目について、3年後の目指す姿としてのできる限りの定量化目標を掲げ、年度ごとの目標とそれを達成するための主要施策を検討記載することが中期計画の骨子である。

しかしながら、まだスタートしたばかりで項目毎に検討を重ねて質を高める必要があり、年度計画を立案する折に中期計画をローリングして新たな環境変化を取り込みながら年度計画として展開することになる。

36年度の運営方針は35年度の中期計画に準じて立案され、理事会運営も中期計画を柱として常に勘案しながら運営していくと圓川会長が宣言されており、一層の目標達成型の運営になっていくことが期待されている。

## ● 私 の 提 言 ●

## 「データ解析力」を活かした産学連携研究の推進を！

筑波大学 大学院システム情報工学研究科 助教授 鈴木 秀男



品質管理分野の研究発展のためには、産学連携の研究が重要な課題と考えております。ご存知の通り、JSQCの中期計画が策定され、Qの確保、

Qの展開、Qの創造という視点から様々な施策が計画されました。そのうち、Qの確保の中では、産学連携をベースにした研究プロジェクトが重要な役割を担っております。

学界に身をおく立場から、JSQCの学の方々の強みというのは、昔も今も「データ解析力」ではないかと思えます。「データ解析力」とは、理論・方法論の知識・スキルはもちろんです

が、データの集計・分析に対する興味・熱意（どれだけエネルギーや時間を割けるか）も含まれます。そのことを再認識して、産学連携の研究としても活かしていくべきではないかと思えます。

例えば、半導体業界では、デバイス・メーカーと装置メーカーが品質および装置データを共有し、さらに第三者機関（大学やその他の独立行政法人）が主にデータ解析を行うという構想があると聞いております。このような組織の壁を超えた取り組みにより、装置性能の改善が効率的・効果的に実施され、リモートセンシング技術や大量のプロセス・品質データを活用した状態予測のための方法論の開発といった研究成果も期待されます。

また、私の研究室においては、最近、あるプロ野球球団と連携して、球場来場者を対象にしたマーケティング調査、サービス品質および顧客満足度測定の研究を行っております。当方の研究室の「データ解析」の従来研究の成果から得たノウハウを十分に活用して、大学と球団（企業）の両者にとって非常にメリットのある取り組みになっているという感触を得ております。

一方、データ解析を中心とした産学連携の研究実施で問題となるのが、企業側の機密保持です。企業の機密情報の漏洩は絶対に避けなくてはなりません。それを恐れるあまり、必要以上にデータの提供・共有を拒むケースが珍しくありません。このことが、産学連携研究の阻害要因となっております。機密保持契約など適切な契約を結び、両者の信頼関係を築くことを前提として、産業界の皆様には柔軟な対応をお願いしたい次第です。

### 第315回 事業所見学会 ルポ

#### 勝どき6丁目再開発作業所

2006年9月22日(金)第315回事業所見学会が「勝どき6丁目再開発作業所」で開催され、参加者は17名であった。ここは、前田建設工業(株)と大成建設(株)の共同企業体によるマンションの建設現場で、完成の暁には地上58階、地下2階、高さ194メートル、入居数2800戸の巨大な二棟建て超高層マンションとなる。現在は、中間の30階付近を建設中であった。

建物は4日に1階のスピードで上に伸びてゆき、2008年1月の完成を目指している。工事はISO9001のQMSに順じて進められていて、説明会場にはそれを証す多数のマニュアルや標準書類が準備されていた。最近、世間を賑した「耐震偽装問題」の後でもあり、建物の品質保証の実施状況に大きな関心が寄せられた。耐震性に関してはPCa積層工法や制振間柱を一棟に付き約600本も採用するなど最新の技術を採用し品質・

安全確保に対応している。品質保証の一例として、搬入したコンクリートの成分分析や柱のボルトのチェックシートなどを見たが確実に実施されている様子を見ることができた。これらの資料は、顧客にも開示しており工事の信頼性のプルーフとなっている。

当工事現場は資材を周辺の工場から搬入し、その資材を使ってワンフロアずつ組上げていく工法のため非常に整理整頓が行き届いており、大工事をしている雰囲気を感じさせないのも驚きの一つであった。

この地域は「バイエリヤの湾岸戦争」と言われるほどマンション建設が多いが、銀座まで歩いて行ける距離にあり、東京湾や富士山を望めるなど立地条件が良いために人気も高く、既に2000戸以上は販売済みとのこと。ただ、最上階はまだ残っているそうだが販売価格が1億数千万と聞き参加者から大きなため息が漏れた。後1年先に、一夜にして1万人の町が生まれることになり、この地域も大変貌を遂げるのではないかと考えつつ帰路に着いた。

山崎 正彦 (元・コニカ(株))

研究会  
だより

## 医療経営の総合的「質」研究会

## 医療機関におけるTQMの普及を目指して

主査 池田 俊也 (国際医療福祉大学)

本研究会は、日本品質管理学会計画研究会として2000年4月に発足した。発足当初より品質管理と医療界より多様な顔ぶれの研究者・実務家が参加しており、発足以来、月1回定期的に研究会を開催して、医療界における品質管理手法の活用可能性と課題について、様々な調査研究ならびに活発な討議を行っている。わが国では、品質管理と医療界との意見交換・共同研究の場は非常に限られていることから、本研究会におけるメンバー間での相互啓発の意義は極めて大きいと考えられる。

実際、本研究会では数々のユニークな成果が生み出されている。特に、初代主査の飯田修平氏ならびに二代目主査の田村誠氏らが中心となり実施した、TQMに先進的に取り組む病院に対する調査では、有益な知見を得ることができた。この結果については、2005年6月に日科技連出版社より「医療の質向上への革新—先進6病院の事例研究から—」として出版を行い、2005年度の日経品質管理文献賞を受賞

することができた。またこれに引き続き、産業界で一般的に有用だと考えられている七つ道具等のTQMツールを先進的医療機関においてどの程度導入しているかを調査し、その概要については昨年日本品質管理学会において発表を行った。

品質管理の手法・考え方を導入したくてもなかなか推進できない医療機関はまだ多い。そこで今後は、医療機関におけるTQM普及を促進する医療制度・政策のあり方に関する提言をとりまとめる予定である。また、医療機関において有用な「医療七つ道具」(仮称)の開発を行い、先進的病院のみならず一般の医療機関への導入を進めることを計画している。

本研究会の活動を通じ、わが国における医療経営の総合的質の研究と実践の発展によりいっそう貢献できるよう、メンバー一同、今後とも努力していきたい。

## 2006年12月の入会者紹介

2006年12月7日の理事会において、下記の通り正会員29名、準会員2名、賛助会員1社の入会が承認されました。

.....  
(正会員29名) ○松本 哲夫 (ユニチカ)

○大久保 孝彦 (八王子保健生活協同組合) ○清水 真次 (東京工業大学)  
○岩村 順雄 (三菱ふそうトラック・バス) ○生形 久幸 (グローバル電子)  
○仲村 薫 (アルテミスインターナショナル) ○源内 悟 (イーグル工業)  
○清水 浩和・二橋 岩雄 (トヨタ自

動車) ○井山 俊郎 (岩手大学) ○植木 和子 (ジョンソン・エンド・ジョンソン) ○肥沼 哲也 (NEC総研) ○高木 誠・加々井 禎秀 (日産自動車)  
○江草 右二 (日本品質保証機構) ○舟橋 俊三 (日本特殊陶業) ○角田 八重 (イオインターナショナル) ○赤間 豊彦 (ニックス) ○堀込 由紀 (高崎健康福祉大学院) ○近藤 孝宏・川口 真広・栞岡 一成・村上 靖 (豊田自動織機) ○佐藤 廣幸 (アイシン精機) ○田邊 弘彦 (日本触媒) ○植田 正男 (コマツ) ○小林 秀孝 (ヤマハマリン) ○梶田 純司 (東レ) ○肥後 勇 (肥後マネジメントシステム研究所)

## (準会員2名)

○高橋 弦大・伊勢 道之 (東京理科大学)

## (賛助会員1社1口)

○富士電機システムズ

正会員：2911名

準会員：114名

賛助会員：174社201口

公共会員：22口

## 新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。とくに若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2007年10月～2008年9月 (1年間)

申請方法：「新規研究会設置申請書」(様式204-1)をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。  
[http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai\\_shinki.html](http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html)

申込締切：2007年5月31日 (木) 必着

## 研究会の申請と運営：

- 研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者 (JSQC正会員：学界・産業界) を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。
- 研究目的と年間の研究活動計画を作成する。
- 1研究会のメンバーは20人まで。
- 会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室。
- 時間は18時～20時。ただし会場の都合がつけば午後でも可。食事支給。
- 研究会運営費は一人1回当たり1150円 (内訳：通信費・資料代・食事代) ただし年間開催数は11回を限度とする。

## 行事案内

## ●第101回講演会（関西）

テーマ：環境配慮型ものづくり

日時：2007年3月7日(水)14:00～17:00

会場：大阪・中央電気倶楽部5階ホール

プログラム：

講演1：「環境配慮型ものづくりと海外の動向」

Surendra M. Gupta 氏  
(米国 Northeastern 大学)

※逐次通訳：中島健一 氏  
(大阪工業大学)

講演2：「松下電器における環境配慮設計の取り組み」

神 恵一 氏 (松下電器産業(株))

参加費：会 員 3,000円 非 会 員 4,000円

準会 員 1,500円 一般学生 2,000円

※当日払い

申込方法：「品質」1月号同封の参加申込書にご記入の上、関西支部までお申し込みください。

## ●第1回「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップ

日時：2007年3月8日(木)13:00～17:15

会場：東京大学 武田先端知ホール

主催：日本原子力学会社会環境部会

日本品質管理学会

東京大学原子力国際専攻

後 援：原子力・安全保安院

原子力安全基盤機構

定 員：200名

参加費：無料

申込先：東京大学大学院工学系研究科  
班目研究室

E-mail: ethics@nuclear.jp

氏名、所属、連絡先を明記の上、  
E-mailにてお申し込みください。

詳 細：ホームページをご覧ください。

## ●医療の質・安全部会シンポジウム

テーマ：医療機関への質マネジメントシステムの導入と推進

日時：2007年3月11日(日)9:30～16:30

会場：早稲田大学 理工学技術院

(大久保キャンパス) 57-202教室

プログラム(案)：

(1) 主旨説明

飯塚悦功 (東京大学)

(2) 「医療機関における質マネジメントシステムモデル」

棟近雅彦 (早稲田大学)

(3) 「麻生飯塚病院におけるQMS導入の取組みと病院経営」

田中二郎 (麻生飯塚病院)

(4) 「東京衛生病院におけるQMS推進の取組みと病院経営」

本郷和彦 (東京衛生病院)

(5) 「日立製作所水戸総合病院におけるQMS推進の取組みと病院経営」

永井庸次 (水戸総合病院)

(6) 「医療機関へのQMS導入・推進における課題」

金子雅明 (早稲田大学)

塩飽哲生 (東京大学)

(7) パネルディスカッション

「医療QMSの確立に向けて」

(8) まとめ

定 員：300名

詳 細：ホームページをご覧ください。

参加費：部会 員 1,000円 非会 員 8,000円

JSQC会 員 で非部会 員 3,000円

PCAPS成果報告シンポジウム参加者 1,000円

申込方法：「品質」1月号同封の参加申込書にご記入のうえ、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。

E-mail: secretary@tqm.mgmt.waseda.ac.jp

部会事務局 加藤、岡田

FAX: 03-3232-9780

(早稲田大学 棟近研究室)

## ●第321回事業所見学会（本部）

テーマ：日米の文化を超えた改善  
リーンの紹介

日時：2007年3月19日(月)13:30～16:30

見学先：米海軍横須賀基地SRF

定 員：30名(会 員優先)

参加費：会 員 2,500円 非 会 員 3,500円

準会 員 1,500円 一般学生 2,000円

※当日払い

申込締切：3月16日(金)到着分

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX

にてお申し込みください。

## ●第113回シンポジウム（関西）

テーマ：変化に対応するこれからのQC  
サークルの推進について

日時：2007年4月17日(火)13:00～17:05

会場：大阪・中央電気倶楽部5階ホール

プログラム：

基調講演：猪原正守 氏

(大阪電気通信大学)

推進事例：関西電力(株)、ダイハツ工業(株)、ヤンマー(株)、がんこフードサービス(株)

参加費：会 員 3,000円 非 会 員 4,000円

準会 員 1,500円 一般学生 2,000円

※当日払い

申込方法：関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

## ●第320回事業所見学会（関西）

テーマ：CSRの視点から見たビル建設  
の現場運営管理

日時：2007年4月26日(木)14:00～16:30

見学先：入国管理局作業所(前田建設工業(株)建設現場)

定 員：30名

参加費：会 員 2,500円 非 会 員 3,500円

準会 員 1,500円 一般学生 2,000円

※当日払い

申込方法：関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

## ●第83回研究発表会（本部）発表募集中！

日時：2007年5月26日(土)・27日(日)

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル

(1) 申込期限

発表申込締切：3月16日(金)

予稿原稿締切：4月20日(金) 必着

参加申込締切：5月16日(水)

(2) 研究発表・事例発表の申込方法

12月送付の発表申込要領をご覧ください。ホームページにも掲載しています。

(3) 参加申込

3月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

### 5th ANQ Asian Quality Congress -Quality, Prosperity and Sustainability-

2007年10月17日(水)～18日(木)ソウル郊外の仁川にて、第5回アジア品質ネットワーク(ANQ) Quality Congressが開催されます。

詳細につきましては、決定次第Webに掲載いたします。

Venue: Hyatt Regency Incheon, Korea

Organized by ANQ

Hosted by KSQM

#### 行事申込先

JSQCホームページ: [www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本 部: TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯: 090-9128-7979

関西支部: TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org